

がん陽子線治療センター 平成28年開設にむけて

岡山大学との共同運用により、平成28年3月に開設されるがん陽子線治療センター。中・四国地方第1号、全国でも12施設目の開設となります。

通常の放射線治療で用いられるX線は、体内に入ると従って吸収される放射線量が徐々に減少するので、病巣の前後にある正常の組織も同等の線量を受け、副作用を生じる原因になりますが、陽子線は、体内に入っても表面近くではエネルギーを放出せず、停止する直前にエネルギーを放出して大きな線量を組織に与える性質があり、がんの治療では、病巣の深さや大きさに合わせて、この線量の深さや幅を拡げることができます。これにより、

陽子線の場合には、病巣のみに効率よく線量を集中でき、副作用を少なくできる利点があり、早期例から進行例まで適応は広く、通常のX線治療より適応例は広いと考えられています。



看護部としても開設に向け現在、「がん放射線療法看護認定看護師」を養成中です。現在の6分野9名の認定看護師に加え、新たな分野での認定看護師を育成する事で、幅広い分野の専門性を高め、看護部全体での看護の質向上に繋げていきたいと考えています。



【完成イメージパース】

今後、新病棟、手術棟等の建設が続きますが、先進医療を取り入れた病院改革の時期に、職員1人1人が自分自身の役割を考えて業務に携わることが、患者様の為であり、延いては地域の活性化に寄与すると考えています。



TOPICS

シンポジウム「私の看護体験を語る」 10月17日(金) 開催

10月17日、慈風会記念ホールにて「私の看護体験を語る」を演題とした、シンポジウムが開催されました。シンポジストとして4名が、それぞれの看護体験をもと

に、熱い看護への思いを語りました。シンポジストの看護観を聞くことで、振り返り、学び、共感し、様々な思いを発表後に意見交換する場となりました。今後も自己の看護観を見つめ、語ることで自分の看護を振り返る貴重な機会としてくれることを期待しています。

【研修担当者 5階西病棟 柳沢 春菜】

今回、シンポジストの方々のそれぞれの看護の思いを聞くことができ、自分自身の看護師としての立ち振る舞い等を振り返る良い機会になりました。特別何かを大きく変えるのではなくても、今のその現状をゆっくり立ち止まって思い返してみ

【シンポジスト】	
訪問看護師長	西川 秀香
4階東病棟	井上 由香
5階西病棟	松本 淳子
手術室	棟久弓美子

るだけでも、それはとても意味のあることで、自分の為、そして患者様の為になると感じた。今回の学びを明日からの看護に繋げていけるようにしていきたい。



おむつマイスター表彰 & オムツラウンド

【おむつマイスター表彰】

7月23日にマイスター検定を実施し30名が看護部長から認定証を拝命しました。認定までの経緯は、皮膚・排泄ケア認定看護師から基礎を学んだ後、おむつのあて方研修に各部署代表の指導者として参加し、参加者へ技術を伝授します。その後、筆記・実技試験を受け合格した人が院内認定マイスターとなります。



現在マイスターは技術を日々のケアの中で活かし、患者に安心できる看護を提供しています。今後も全体のレベルアップに繋がるように活動を続けていく予定です。

【感染管理認定看護師 國米 由美】

【オムツラウンド】

現在、2ヶ月に1回、定期的にオムツラウンドをしています。3西病棟では小集団活動としてオムツ改善に取り組んでおり、排尿日誌で1週間に1回のアセスメントを行い、より個性の高い失禁管理を目指して努力しています。ラウンドでその活動状況を知り、とても嬉しい気持ちになりました。少しずつではありますが、全体のオムツ管理についての知識や技術が向上していることを肌で感じる事ができたラウンドとなりました。

【皮膚・排泄ケア認定看護師 山本 千春】

パート職員研修

～ラインケア研修～



9月1日から全6回にわたり、パート職員を対象に、コミュニケーション能力の向上を目的とした「ラインケア研修」を実施しています。パート職員は勤務時間も個々で違う為、研修に参加する事が難しいのが現状ですが、今回、勤務時間内で集中して6日間の研修を設定しました。今後もこのような研修を実施する事で正職員同様、パート職員の能力向上を図っていきたくと考えています。

【担当師長 小坂 寿江】

研修はグループワークを交え進行していききました。参加メンバーは、最初は緊張した面持ちでしたが、それぞれが対面するメンバーと会話をすすめていくうちに次第に、表情がほぐれていきました。日常の慌たしさから離れ、改めて自分を見つめる良い時間だったと思います。新たな「自分発見」もあったのではないのでしょうか？他部署のスタッフとの交流の場にもなったようです。貴重な体験になったと思います。

【担当師長 湯浅 貴子】

「パートなのに研修を受けさせて頂けるなんて嬉しいです。座って講義を受けるなんて久々でワクワクしています。」ある参加者が所属部署の師長に話したそうです。それを聞いて担当しているこちらにも嬉しい気持ちになりました。今年はじめての試みで始まったパート研修です。コミュニケーションのコツや技術など、日常で必要かつ重要なことがテーマでした。きっと何か感じてくれたことでしょう。研修の成果が出ることを期待しています。

【研修受講者 6階東病棟 椿本 祐菜】

患者さんの中には、たくさんの話をしてくれる方や質問に対して、はい・いいえでしか答えてくれない方、にこやかに話しをしてくれる方やそうでない方いろいろな方がおられます。質問の仕方を変えたり、エクステンド、アドバンス単語は難しいですが、活用できれば患者さんから必要な情報を引き出すのにとっても有用な方法だと思います。

【研修受講者 4階東病棟 多胡 直美】

メンタルヘルスの大切さを考え、心の仕組み、コミュニケーションなど、グループワークなどを交えながら学びました。中でも、“心の脱水”をおこさないよう、自己を知り、その対処法を知っておくことが大切だと感じました。また、コミュニケーションにおいては、信頼感が大切だと感じました。自己コントロール能力、コミュニケーション能力を高め、今後に活かしていきたいと思っています。



どこまでも広がる空と海の青。いつも快晴のイメージのハワイに数ヶ月ぶりの雨が降りました。逆にハワイの雨を体験できることは珍しいみたいで、現地の人は喜んでいましたが、私たちにすれば悲しい雨でしたが、恵みの雨と前向きに考える事にしました。ハワイの景色はどこを切り取っても絵になり、一枚一枚見返しても思い出に浸ることができます。

身も心もリフレッシュでき、同期との大切な思い出ができました。ありがとうございました。

【5階西病棟 松尾麻未】



ハワイ海外研修

9月26日～9月30日



常夏の島ハワイへリフレッシュ旅行。中途採用の私まで参加させてもらえると聞き参加しました。青い海、暑い日差し、いつもの日常生活とかけ離れることができた3泊5日でした。年甲斐もなく水着を着てシュノーケリング。溺れながらも、ハワイの海を感じる事ができました。一番印象に残ったのはパンケーキ。体重増加を気にしつつオーシャンビューを眺めながらゆったりとした時間。

命の洗濯をした気がします。もう一度来たいと思えるハワイでした。心も体もリフレッシュできたと思います。

病院、病棟スタッフの皆様、ありがとうございました。

【N1病棟 本田 由佳】



新人が起こしやすい事故事例研修

10月23日(木) 実施

新人看護職員対象に「新人が起こしやすい事故事例」研修会を実施しました。新人職員が理解しやすいように、事例を上演、DVD制作したものを研修に活用し、大変好評でした。

新人が起こしやすいインシデント事例をプリセプターの方々を実演して下さい、その内容について要因・対策を考えました。内容としては、点滴混注の間違い、インスリン混注の忘れ、シリンジポンプの投与量の間違い、抗生剤を単独ルートで投与しなかった場面などについて話し合いました。どの事例も日常業務の中で起こしやすい内容であり、就職して少し慣れた今、本当に気をつけなければいけないと思いました。また、グループワークをする事で他部署での対策なども聞くことができ情報交換ができたと思います。私達が話しあった中で一番多かった意見は、確認不足、知識不足でした。少し不安と思った時点で調べたり、先輩に聞いて確認することが大切だと思いました。

【4階西病棟 清水 梨紗】



お悔やみ

大変悲しいことではございますが、去る8月25日、主任リーダー岡本明美さんが53歳にて、死去されました。

いつも優しく温かく患者さんにもスタッフにもかかわり、主任リーダーとして活躍し、看護部で貢献された岡本さんに感謝申し上げますとともに、改めて心よりご冥福をお祈り申し上げます。